

**「DX化によるビジネス創出の可能性」**  
**～DXモデル創出補助金 公募説明会～ 実施報告（抄）**

開催日：2022年4月28日（木）13：30～15：00

場 所：札幌市産業振興センターセミナールーム D+Youtube ライブによるオンライン配信

共 催：一般財団法人さっぽろ産業振興財団

共 催：札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム



後 援：札幌市

参加者：64名（会場16、配信視聴48）

プログラムと内容概略（以下、敬称略）

**1【基調講演】「DX化によるビジネス創出の可能性」**



DX化によるビジネス創出の可能性  
～DXモデル創出補助金 公募説明会～ 基調講演「DX化によるビジネス創出の可能性」

HOKKAIDO 28

### DXにおけるデータの位置付け

- DXの推進の第1歩
  - データの扱い方や活用方法の理解
- 多種多様なデータが技術的に収集可能
  - データ分析による新たな知見の獲得
    - 予測・自動認識 → 人的コストの低減
    - 「データ×AI」が重要
- データを有効活用するための環境整備
  - センサの導入
  - 計算環境の整備
  - 人材の確保

【講師】北海道大学大学院情報科学研究院 情報理工学部門 複合情報工学分野 調和系工学研究室 准教授 山下 倫央 氏

**北海道大学大学院情報科学研究院 情報理工学部門 複合情報工学分野  
調和系工学研究室 准教授 山下 倫央**

○講演にあたり

・DXの抽象論ではなく、もし自分達の研究室で取り組んだ研究題材をこの補助金に申請するとしたらどうなるか、その想定を行いながら、DX化によるビジネス創出の可能性を話したい（あくまで私見であり、なぞっても採択する訳ではない点をご承知おきを）。

○ポイントは「データ、システム開発と体制構築、適用先」

→何もデータがないのであれば、データを揃えるには期間的に厳しい

→0からの出発は厳しい。PoCを終えたシステムをブラッシュアップする目的ならフィットする

→札幌で実施する必要性、時勢・タイミングを捉える

→採択される理由は明確になっていた方が良い（過去の実績は重要）。

○ODX 概念面から考えたとき

・2004年からDXの定義はされているが、やはり2019年に出された経産省の定義に近い概念であるべき

○キーワード

・ディスラプション→既存の産業を破壊する（GAFAの戦略のように）

・経産省がDXを進める理由→日本の産業が破壊される前に世界に出ていく。生き残りをかけて。

・エクスポーネンシャル的な業績の伸びが見込める

・ユニコーン企業のディスラプション

○例として、

1) Netflix 4段階のDX（自宅配送型オンラインDVDレンタル→サブスクと自動配送→FTTHを用いたVODの導入→エンターテイメント配給の構造改革）

2) Uber フードデリバリー（もともとはライドシェアが強かった→コロナ禍におけるデリバリーの拡大とスタッフ確保をシェアリングエコノミーの思考で解決。配達員が余剰時間だけに配達。結果としてライドシェアが浸透しない国でも収益UP）

○ディスラプション6段階

・デジタル化（アクセス・シェア・配信の簡易化）→データはDXの基本

・水面下の成長（閾値を超える前の準備段階）

・ディスラプティブ（新たなサービスによる既存市場の破壊）

・無料化（普及に伴うサービス価格の低下）

・非物質化（全てのもののソフトウェア化）

・民主化（誰にでも使えるサービスへ）

○ODXにおけるデータの位置付け

・DXの推進の第1歩（データの扱い方や活用方法の理解）

・多種多様なデータが技術的に収集可能（データ分析による新たな知見の獲得、予測・自動認識による人的コストの低減、「データ × AI」）

・データを有効活用するための環境整備（センサ、計算環境の整備、人材の確保）

→紙をそのままデジタルに、では弱い

○ODX 推進に向けた考え方

・課題から考える

・問題を抽象化し具体化

・速く試し、速く学習し、速く評価する

○ODXの手始めに取るべき行動

・最新の技術動向に触れつづける。仲間を見つける（既に活動している人から学ぶ。知見の不足、人材の不足を補う）

- では、自分の研究室をネタに、DX 補助金に申請するとどうなるか検証（自己評価の参考に）
  - ・チャリット（競輪予想記事の自動生成）→市営施設が札幌にないので厳しいかも
  - ・除雪への出勤判断を支援するシステム開発（出勤判断のためのマルチモーダルなデータの統合）
    - 今年始まったばかり。データが少なくテストし切れない。開発とデータ収集に難あり。
  - ・バス車内モニタリングによる社内状況分析
    - 完成形に近いので、補助金よりかは、事業化した方がベターか
  - ・歩行器の開発
    - 既に自律走行までできているので、やはり事業化した方が良いか
  - ・ロードヒーティング自動制御（カメラで路面状況を撮影し、画面状況から on/off 判定する）。
    - 年間 40%の削減効果は出ているが、地域性に偏りあり
  - ・介護求人広告優先度判定サービス
    - 既にシステム開発しているベンダ（大手）があり難しい
  - ・灯油配送最適化（給油残量に応じて配送先を選択・企画するアルゴリズム開発）
    - 環境に優しい、省力化が図れる。
- 今こそ DX 推進のチャンスと捉え、チャレンジを！

## 2 DX モデル創出補助金 公募説明

DX化によるビジネス創出の可能性  
～DXモデル創出補助金 公募説明会～

DXモデル創出補助金公募説明

①補助金概要

●事業目的「市内中小企業のDXを実現」  
→さっぽろにおけるモデルケースを創出し  
業界の垣根を越えてDXを推進する。

売上アップしたい  
認知度を上げたい  
新商品を作りたい  
廃棄を減らしたい  
リピーターを増やしたい  
テレワーク  
レポートワーク  
楽なシステムにしたい  
企業の間みはさまざま・・・  
営業活動を増やしたい  
複雑な業務をシンプルにしたい  
ペーパーレス

一般財団法人  
さっぽろ産業振興財団  
IT産業振興課長  
佐々木 諭志

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 IT・クリエイティブ産業振興部  
IT産業振興課長 佐々木 諭志

### ○事業目的

- ・「市内中小企業のDXを実現」

市内 IT 事業者により開発・提供されるデジタル技術を活用した製品やサービスで、さっぽろにおける DX モデルケースを創出し業界の垣根を越え DX を推進。

### ○補助対象者

- ・市内 IT 事業者→市内に本社があること。中小企業の枠にこだわらず、幅広く DX を推進したい。

### ○補助対象事業

- ・DX化する市内中小企業が明確に定まっていること

## ○補助対象経費

<人件費>補助対象事業の従事者に対するもの申請時に申告した者で、事業実施期間内に給与として支払いが完了しているものが対象。(事業に直接関与する従業員の直接作業時間が対象)

<機器費・原材料費・消耗品費>※汎用物品、他の用途に併用できる物品は、補助対象外

<機器リース費>

<外注費>開発における一部を外部に委託する経費(※補助対象経費合計額の10分の3以下)

外注費を気にするのであればコンソーシアムと一緒に実施することがベター

<通信・運搬費、施設および設備等賃借料>

## ○公募期間

- ・既に公募中。令和4年4月18日～令和4年6月3日17:00まで(事務局必着)

## ○申請書類等

- ・札幌市エレクトロニクスセンターのwebサイトにて公開中

<https://www.eleccen.jp/project/it-business-top/it-create/>

## ○審査基準

市内中小企業者において横断的に展開でき、DX化のモデルケースとなりうる内容か

(1)事業コンセプト(DX実現のため、IT事業者がデジタル技術をどう活用し、製品・サービス開発や提供を行うか)が明確か。

(2)成果は業界の垣根を越えて幅広い分野で展開され、札幌における中小企業のDXモデルケースになり得るか。

(3)IT事業者は中小企業の課題や目指すべき姿を適切に把握し、DX実現のため適切な提案をしているか。

(4)具体性、実現性があるか。

(5)独創性、先進性があるか。

(6)事業を実施(完遂)できる体制か。

## ○お問い合わせ先・申請書類提出先

〒004-0015 札幌市厚別区下野幌テクノパーク1丁目1番10号

札幌市エレクトロニクスセンター 一般財団法人さっぽろ産業振興財団 IT・クリエイティブ産業振興部

(TEL:011-807-6000/E-mail: [it-pro@sec.or.jp](mailto:it-pro@sec.or.jp))

## 3 質疑応答

- ・中小企業に病院や大学は含まれるのか

→事業体によって適・不適の可能性があるので詳細をお教えいただきたく、お願い致します。

その後、メールにて3件ほど問い合わせをいただきました。

## 4 最後に

申請締切は6月3日までとなっております。

多くの皆様からご申請いただけることを期待しております。

引き続き、お問い合わせ、ご質問等お受けいたします。

以上